

『交流活動を通して学校や地域においてたくましく生きる児童の育成』

あま市立甚目寺西小学校

1 目的

校訓「明るく やりぬく たくましい子」のもと、様々な人との温かいふれあいを大切にした学習の場を積み重ねていくことにより、互いを思いやることの大切さを学ばせるとともに、規範意識の高揚も図っていきたいと考えています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大等により、交流活動が制限を受け、今まで活動できたことができない年になりました。

2 内容

(1) 体験と交流（児童・地域・国際）を通して

ア ペア学年活動（異学年交流活動）

本校でのペア学年活動は6年目を迎えました。1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生が「ペア学年」となり、清掃活動や遊び、読み聞かせなど、学校生活の様々な場面でかかわる中で、人間関係を築いたり、上級生としての自覚を促したりする活動を行ってきました。今年度は、コロナ禍で、「ペア清掃」のみの活動となってしまいました。このような状況の中で、上級生は下級生の手本となったり優しく教えたりし、下級生は、上級生に親しみをもち、張り切って役割を果たす姿が見られるなど、貴重な活動となりました。

イ 児童会活動

コロナ禍で集会ができない等、感染拡大防止の制約がある中、児童会役員の発案による活動が行われました。

①『1年生おめでとう集会』

体育館に全員が集まって行うことができないため、放送による会になりました。「先生〇×クイズ」や西小学校を知る「ここはどこでしょう？クイズ」が行われました。1年生は、放送に耳を傾け、楽しそうにクイズに答えていました。



【願いを叶える千羽鶴】

②『アマビエイラストコンクール』

児童が思い思いのアマビエを描き、優秀作品を廊下に掲示しました。1年生から6年生まで、生き生きと描かれた作品が数多く集まりました。

③願いを叶える千羽鶴制作

全校児童による千羽鶴作りでは、一人でも何羽も折る児童の姿が見られました。完成した千羽鶴は、平和な生活を願う象徴として、体育館の天井近くに飾られています。

④『3密にならない遊びアンケート』

コロナ禍で3密を避けるなど、遊びにも制約がかかる中でも楽しく遊ぶ方法を募集しました。出されたアイデアは、児童会新聞で発表・紹介されました。

⑤九州豪雨募金

平成29年の九州豪雨災害の際行った募金活動を覚えていた児童会長が発案し、募金活動が行われました。遠く離れていても、自分たちができることはあるということを学ぶ機会になりました。

ウ スリーハート運動

本校では、毎年、規範意識の高揚と人権モラル向上をめざした「スリーハート運動」に取り組んでいます。今年も児童と保護者、そして地域の方々から標語作品を募集し、それぞれの優秀作品を1枚のポスターにまとめ、高学年の児童が近隣の公共施設や商業施設等へ出向き、掲示していただきました。



【スリーハート標語掲示のお願い】

エ マロニー小学校との交流

アメリカ・マロニー小学校との交流活動を始めて6年目。互いの国の文化を紹介し合えるようなメッセージカードやオーナメント等、工夫をこらした作品を交換したり、テレビ電話で直接会話したりして交流を続けてきました。今年度は、メッセージカードの交換といった活動が中断せざるを得ない状況でしたが、次年度は、導入予定のICT機器を活用し、オンラインといった交流の方法を工夫していきたいと思います。

(2) 教師力アップで子どもたちの成長をと幸福を

ア 外部講師の招聘

外部から講師を招き、専門性を生かした学習活動を進めることができました。

防災キャンプ指導 ハッピートーク

イ 現職教育の充実

Q U 検査の分析では杉村秀充先生を講師として研修を深め、教師の力量向上を図りました。



【外部講師による狂言の出前授業】

3 評価

今年度は、コロナ禍で、今まで積み上げてきた教育活動に対して、取組の方法等の変更が求められる一年でした。特に異学年交流等、本校の教育の柱である人と関わる活動がほとんどできませんでした。このような中でも、学校評価の児童アンケート結果では、約80%以上の児童が「やる気をもって学校生活を送っている」と答えています。少しずつ新しい生活様式に慣れたり世の中の状況を理解したり、そして目の前の活動に集中して取り組んだりすることができたからと考えます。

4 課題

コロナ禍において、どのように人と人とがつながり人間関係を築いていくのかについて、新しい生活様式を念頭に、新たな発想で手立てを考えていきたいと思っています。